

<令和6年度日本水産学会春季大会 ミニシンポジウム>

水圏動物の「賢さ」から水産学への展開を探る

日時・場所：令和6年3月27日（水） 13:00-16:40 第2会場

企画責任者：高橋宏司（新潟大）・安房田智司（大阪公大院理）・佐藤成祥（東海大海洋）・石原千晶（北大院水）・幸田正典（大阪公大院理）

13:00- 13:20	開会の挨拶・企画の趣旨説明	高橋宏司（新潟大） 座長：高橋宏司（新潟大）
13:20- 13:45	1. 「認知進化生態学」で紐解く魚類の社会	安房田智司（大阪公大院理）
13:45- 14:05	2. タコの摂餌生態から考える頭足類の賢さ	佐藤成祥（東海大海洋）
14:05- 14:15	休憩	座長：佐藤成祥（東海大海洋）
14:15- 14:35	3. 甲殻類は賢いか？ 十脚類から考える	石原千晶（北大院水）
14:35- 15:00	4. 自己意識や「心」がある魚類と、これからいかに接していくか	幸田正典（大阪公大院理）
15:00- 15:10	休憩	座長：石原千晶（北大院水）
15:10- 15:30	5. サバ・イワシ類仔稚魚の摂餌・逃避と「賢さ」の意外な関係	中村政裕（水産機構技術研）
15:30- 15:55	6. 魚類の認知研究からみる水産学の未来	高橋宏司（新潟大）
15:55- 16:05	休憩	
16:05-16:35	総合討論	座長：高橋宏司（新潟大）
16:35-16:40	閉会の挨拶	安房田智司（大阪公大院理）

企画の趣旨

動物の「賢さ」は、高等動物とされる陸上動物に限定されてきた。しかし、近年魚類や頭足類、甲殻類などの水圏動物において、高次の認知を備える可能性が続々と報告されている。我々は、学術変革領域Bの助成を受けて、水圏動物の認知研究から「動物の賢さ」を見つめ直す「認知進化生態学」を立ち上げている。一方で、水産学会の皆さんの研究現場においても、対象としている水産動物の中に「賢さ」を感じる機会が多いのではないだろうか。動物の行動原理にある認知を探ることは、水産生物の資源管理や増養殖といった水産学への発展に貢献することができるかもしれない。本講演では、魚類・頭足類・甲殻類といった水圏動物の最新の認知研究を紹介し、みなさんに水圏生物の賢さを検討する機会を提供したい。そして、認知研究の水産学分野への展開可能性について、議論を講じたい。